

加藤家、細川家、松井家の歴史を見守ったお寺

4 本成寺

八代城跡から歩いて10分



加藤正方ゆかりのお寺

5 浄信寺

八代城跡から歩いて15分

松江城の設計者加藤正方が、父可重の菩提寺として慶長9年(1604)に建てた日蓮宗のお寺。阿蘇内牧城下から麦島城下を経て、元和8年(1622)現在地に。可重や正方の肖像画や御位牌、正方の辞世など貴重な歴史資料を伝えています。大きな門には正方のかたばみ紋と松井家の三ツ笹紋が。



松井家と妙見宮ゆかりのお寺

6 匠王寺

八代城跡から歩いて10分

松江城ができる前からあったお寺で、寛文5年(1665)、松井家3代松井寄之の夫人崇芳院が、夫の病気が治るよう願って現在地へ再興。八代城と城主の安寧を祈願する真言宗のお寺です。本尊の薬師如来立像(国指定重要文化財)をはじめ、も妙見宮(現八代神社)にあった仁王像、足手荒神などがあり、今も篤く信仰されています。

細川三斎の想いが聞こえる

7 光園寺

八代城跡から歩いて10分

寛永13年(1636)、細川三斎の家臣が創建したお寺。本堂の天井には、松井家の御用絵師安藤雲桂が描いた雲龍図があり迫力満点。さらに、本堂の梵鐘は、慶長19年(1614)三斎が信長の33回忌に小倉で作らせてもらったという貴重なもの。この音を聞いて、三斎は信長を偲んだことでしょう。



八代城下町の繁栄はここから始まった

1 徳測の津跡

八代城跡から歩いて10分

松江城の南に面した前川一帯は、古くから「徳測の津」と呼ばれ、文字通り、徳(財宝)の集まる津(港)として、海外との貿易で賑わったところ。江戸時代には、船着場や荷揚げ場、番所がありましたが、現在では、石炭岩でできた石段が残るのみです。ここからは、古籠城・麦島城・松江城が一望でき、港と城とともに発展した八代の歴史を実感できる場所です。



城下町の面影をとどめる

2 町屋のある風景

八代城跡から歩いて10分

徳測の津跡から松江城へ延びる道は、薩摩街道が通り、八代城下でもっとも栄えたところ。とくに海産物を扱う問屋・小売商が多かったといわれ、古い土蔵造の町屋がわずかに残っています。



3 笹堀公園

八代城跡から歩いて10分

前川から入り込んだ入り江があり、江戸時代のはじめ、堤防に締め切られ堀になったところ。笹の葉の形をしていることからその名があります。じつは、16世紀、相良氏が海外との貿易を行う大型船「市来丸」を造船した場所と伝えられています。

笹の形から連想するのは?

河童渡来の碑

この辺りのカップがウヨウヨ!

松江城・麦島城・古籠城が見わたせる



彦一ばなしの舞台「化けダヌキ」

彦一ばなし
一休や吉四六とぶらぶら
とんちばなしの主演として
有名な彦一は、出町に
住んでいました。
光徳寺には彦一の墓が
あったそうです。

彦一ばなしの舞台「スミクダでかつばを負かす」

彦一ばなしの舞台「しっぽのフリ」

光徳寺は、後醍醐天皇の臣名和氏の子孫明信が天正15年(1587)に建てたお寺。あちこちに名和氏の家紋「帆掛け舟」が見られ、海との関係が強い一族であったことを物語っています。この寺の前の道が薩摩街道で、城下町の出入口を守るため、鉄砲足軽たちが住んでいました。